

遍照寺山は池の乾に向ひたる山なり、いにしへ寛朝僧正のひらき給ひし真言興降の地、遍照寺の旧跡は山の麓にあ

り。本尊は十一面觀世音、赤不動共に弘法大師の作なり。「今池の裏村の草庵に安置す」坐禪石〔遍照寺山の半腹にあ

り、寛朝の坐禪し給ふ所なり〕登天松〔同じき山の嶺にあり、池の汀より見ゆる、寛朝此松の梢より天に登りしとい

ふ〕佐古曾の水〔池の西の方にして蘆原なり〕觀音島〔池の乾にあり、いにしへ遍照寺より此島に橋ありて觀音堂あり〕

児のやしろ〔池の西道の傍にあり、寛朝僧正の常に傍にて仕へし児童あり、寛朝登天の後悲泣して終に此池水に身を投

て死す、其靈を祭るなり〕児ケ石〔坐禪石の下にある小石なり、寛朝坐禪のとき児童此石に頭をたれて眠るとなん〕釣

殿〔児のやしろの傍池の汀にあり、児童の靈此所に現しとぞ〕釣殿橋〔池のひがしの橋をいふ〕大道法師足形池〔広沢

の巽三町ばかりにあり〕屏風岩〔広沢より鳴瀧に至る北の山にあり〕音頭山〔足形池のひがしの山をいふ〕千壺の井

〔音頭山に数おほく井あり、草樹繁茂して見えす、案内不知にして此山に入ると井に転ぶとぞ〕さゞれ石〔鳴瀧道のか

たはら南の山にあり〕千代の古道〔広沢のひがし三町ばかりにあり、常盤へ通ふ細道なり〕

〔千代の古道は正しき名所にあらざるよし名所の諸書のせたり、既に定家卿為家卿をはじめ、嵯峨の詠合に古歌多

し、定りたる名所にあらざるといふも其謂あらず〕

帯とり池〔広沢のひがしなり、路のかたはらにくぼみたる所あり、是なり。むかしはいと深くて、此池の靈帯と化して

人を取りしとぞ〕

しはふが谷、まとの野、せんをうとう仙翁洞、の野依より〔此辺にあるよし其所さだかならず〕

ふかくさのさと深草里〔せいりやうじ清凉寺のひがし南なり、今八軒といふ、土器づくり住するなり。其人の氏をふかくさ深草といふとぞ〕